

「タバコ」と「ガン」(新しき世界へ 1969年 1-2月号)

仏文イン・ヤン誌 1967.6・7・8月号

桜沢如一 著

後藤光男 訳

アメリカ政府は喫煙が肺ガンの最も重要な原因だと声明した。政府は医師による統計でそう信じ込まされた。この国は多数決に従う国である。それはアメリカでは別に新しいことではない。いわゆるデモクラシーの国では、政策は多数の力によって支配される。アメリカにおける”禁酒”は(1919-1933)過去の一例である。この”禁煙”という新しい政策もこれに先立つ”禁酒”と同じような末路を辿るであろう。

古代中国の最初の賢帝の一人はこの種の最初の飲料が発明された時、アルコール飲料の使用は将来多くの禍を作るであろうことを予見していた。しかし彼はそれを”禁止”することを拒んだ。中国人が決して飲み過ぎをせず、中国では飲酒の乱用による弊害は実際には決して起らないことは事実である。大中国の国民の判断力は無限の宇宙の秩序、陰陽の実用的宇宙弁証法哲学の教えのお蔭で非常に高い。これは多数決の力に対する宇宙哲学の論理の力の勝利であった。

アメリカの喫煙者への警告は統計上においてのみ通用するが、論理の上では全く通用しない。この警告には喫煙が肺ガンを起させるどんなメカニズムにも詳細にふれていない。ロンドンの”スモッグ”の中にも同様の性質の或る発ガン物質があることが書かれているが、そこではすべての人々が毎日、日に 80 本のタバコに相当する大量のこの種の発ガン物質を吸っている。殆んど全く未知の問題についてのこれらの論議はすべて時間つぶしにすぎない。

説明の欠如 1

大切なことは、我々の体に、喫煙をしない人の体にさえもガンが自然発生するメカニズムを生物学的、生化学的、生理学的に正確詳細に説明することであろう。先ず、ガンについての自然免疫に現われる個人差を説明する必要がある。そして第一に、自然免疫とは何であろうか?医学も現代生理学もこれには答えない。免疫、それは無知をかくすための言葉である。免疫は、”未知の理解できない或るもの”であり、モリエルの医学喜劇中の”熱性体液”による徴候である。

すべての病気の発現の際のそれを克服する抵抗力と聞かされている免疫は、東洋の実用弁証法哲学によれば、完全なる生命の特徴の一つである。そして、完全な生命とは何であろうか?形面上学的に言うと、生命はすべての人がそれを享受出来る無限の自由、永遠の幸

福、絶対の正義である。これこそ別に有名な人権宣言を知らずとも、人権の根本的基礎である。身体的に言うと、生命は宇宙的、エネルギー的、核及び原子による組織化、次に地質学的時代を経て、単細胞、多細胞等の組織化の長い階段を通過して人間に達する無限一絶対一不可視なものの物質化である。逆にいうと、それは脱物質化又は永遠の精神化による回帰への長い旅である。”死”は恐怖による想像であり、それは無限の宇宙の壮大なこの秩序を知らない者の幻影なのである。

喫煙は陽性にする

無限の宇宙の秩序の唯一の原理、つまり、陰陽実用弁証法によれば、喫煙は陽の範疇に属する。タバコが暖い気候の土地(陽性)で育つことは事実であり、このためタバコは陰性である。それは又丈が高い(それ故陰性の遠心力に支配される)。その葉は大きくひろがっている。(陰性遠心力)だから植物としてのタバコは非常に陰性である。しかし、次にそれは乾燥、脱水される(陰性の水の喪失は陽性化を意味する)。次に妙られ(大きな陽性化であり、それによってすべての陰性なものを追出す)、そのため火のついた端から真直ぐに上に上る煙は青又は紫がかった色(陰性)である。そしてタバコの陰性の特徴の最後の除去を現わす。口にくわえられたタバコの端から下降する煙は反対に赤みがかった黄色、陽性の色である。(下降するものはすべて求心力の陽性に支配される)

喫煙者が吸込むのは決して紫色(陰性)の煙ではなくて、黄一赤色の陽性の煙である。何と本能による賢さであろう!生化学的に言うと、黄赤色の煙が陽性成分を含むのに反して、紫色の煙は陰性成分を含む。生化学的分析結果は可能な限りの正確さでこのことを確証している。ガンは極めて陰性の物質の過剰によって起るのであるから、タバコの陽性の煙はガンの治療や予防のためには非常にすすめられるべきである。その上、喫煙を開始すると多少ともやせることはよく知られた事実である。(陽性化、収縮、求心力によって)反対に、タバコをやめると喫煙者は肥り、拡散する。喫煙する妊婦が普通より大きくない、より小さい赤ん坊を生むことも知られている。あなたは喫煙が陽性化であることが分ったであろう。爆発的陰性化、持続的拡張であるガンは(遠心力、拡散の陰の力に支配されている)、収縮力のある陽性の煙を吸うことによってその発育が妨げられるであろう。そのため遂には後退し、再吸収されるに至るであろう。

勿論、喫煙はガンを治すための唯一の方法では決してない。発ガンにも多くの原因があるように、より有効なその他の方法がたくさんある。しかし、喫煙はむしろガン患者にもガンに対する免疫力を強めようと望むすべての人々にもすすめられることを我々は全くの確実さで声明することが出来る。タバコを非難する最近の政府声明を否認養せるために、かなり部厚の生化学的生理学的研究書でこの問題を展開させることも私には可能であるが、まだその時期ではないのである。

N.B.

もしあなたがタバコ弁護の公式論説を希望するなら、タバコに反対する小冊子を読むだけでよい。そこにのべられている論議はすべて我々の弁証法によれば、実際はタバコ弁護の内容となるのである。(特にそれはタバコがビタミン C を破壊する事実を主張する。ところがすべての人がビタミン C の過剰に悩まされているのではないか?)

最近の研究は、喫煙した婦人の子供は生まれたとき、喫煙しない婦人の子供より体重が軽いことを確証している。しかし、この報告の結論は、(説明はつかないがと彼は言う)次の如くである。”死亡率はこれらの赤ん坊の方が、喫煙をしない婦人のフェザー級の赤ん坊にくらべて低い。

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください